

議事要旨(4)資産除去債務専門委員会における検討状況について

冒頭、逆瀬副委員長（専門委員長）より、現在、専門委員会では公開草案の公表に向けた検討を行っていることが報告された。

引き続き、荻原主任研究員より、資産除去債務の測定値の属性と割引率について専門委員会での審議の状況が報告された。

資産除去債務の測定値の属性と割引率については、将来キャッシュ・フローには将来における自己の支出の見積り（信用リスクの影響を考慮しない）を使用するものとし、割引率は信用リスクを反映しないリスクフリー金利を使用する方法を事務局として提案している。

この方法を採用する理由としては、将来キャッシュ・フローについては、将来の時点で除去処理を実行する場合の支出額の見積りとするのが自然であること、また、割引率については、キャッシュ・フローに明示的な金利キャッシュ・フローが含まれていない以上、信用リスクを反映しない割引率によるのが整合的と考えられ、退職給付債務の測定とも整合することなどが挙げられた。

これに対し委員等からは先行する米国の資産除去債務の取扱いとは異なることとなり、また、割引計算の方法をあまり詳細に規定することが実務上弊害にならないかといった意見が寄せられた。

また、耐用年数の長い固定資産について考えたとき、信用リスクについて調整するのか、しないのかを明確にしなければその影響は大きいものとなるといった意見も寄せられた。

以 上